

令和元年度 事業成果報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1. 地雷処理支援事業成果実績

カンボジア政府機関のCMAC(カンボジア地雷対策センター)と共同して事業を実施し、村人参加型地雷探知チーム5名により、バタンバン州のカムリエン郡、プノンプラ郡、サンパウル郡、及びパイリン州内の5村8箇所の地雷原を探知し、約28.6ヘクタール(累計約231.1ヘクタール)の農地を安全にするとともに、活動地域の村人からの情報による回収活動、危険回避の啓蒙活動を行った。

詳細は、以下である。()数字は2011年8月からの累計

- (1) 処理した地雷数 : 対人地雷88個(637個) 対戦車地雷11個(188個)
- (2) 処理した不発弾 : 160個(1256個)
- (3) 処理した面積 : 285,861平方メートル(2,322,220平方メートル)

2. 地域復興支援事業成果実績

(1) 相互の友好交流を促進する事業

「カンボジア王国バタンバン州及び日本国愛媛県間における友好交流・協力活動の構築に関する覚書」の締結について約9年前から相互調整の仲介をしていたが、2020年1月愛媛県知事がバタンバン州を訪問し調印締結された。今後は、両州県の交流及び協力活動が盛んになることが期待され、IMCCDとしても仲介を進めていくことになる。

(2) インフラ整備を支援する事業

ア 井戸掘削

井戸9基(No.39~No.47)完成。

イ 車いす

愛媛県東温市社会福祉協議会「海渡る車いす実行員会」様から車いす7台(累計177台)が寄贈され、バタンバン州内の車いすを必要とされる方にプレゼントさせて頂いた。

ウ 慰霊塔・お地藏様

2007年に対戦車地雷の爆破事故で7名の隊員が殉職した。その慰霊塔が2008年に完成し慰霊していたが、老朽化したため修復し、これを村人の合同慰霊塔にした。7名の殉職者を慰霊するため新しく慰霊塔を建設した。更に、横浜の母念の会様等有志の方々から「お地藏様」をご寄贈頂き安置した。これらの建設費用は、クラウドファンディング等で3,398,951円のご寄付を頂き完成させることができた。

(3) 農業の発展を支援する事業

村人からラム酒の原料になるサトウキビやアロマオイルの原料になるレモングラスを

クマエ蒸留株式会社が買い取っており、良質なものになるよう栽培について指導している他、9ヘクタールの畑にキャッサバ芋、モリンガ、パパイヤ、カカオ、アボガド、パッションフルーツの植え付けをしてその成果を村人の農作物の栽培に反映させる取り組みを行っている。

(4) 地場産業の発展を支援する事業

カンボジアは農業国。カンボジアの自立発展の切り札は、①良質の農産物を産出し、②それを世界が認める加工産品に仕上げ、③カンボジアの誇りとして国際的に流通させること。地雷除去後の畑には、キャッサバ芋などが植えられる。芋は安値で隣国タイに売られていたので、何とか村人の収入を上げようと、この芋に付加価値を付けることを模索、芋焼酎の開発を2008年から始めた。松山市の酒造メーカーで当会顧問の篠原会長のアドバイスを受け、試行錯誤で開発したところ、大変美味しいと評される商品が出来た。バタンバン州知事によって「ソラークマエ(カンボジアの酒)」と命名され、現在カンボジアのプノンペン空港やシエムリアップ空港、世界の免税店でもあるTギャラリアやその他国内で販売されている。また、愛媛の今治市にある(株)今治デパート様が輸入して国内で販売している。更に、カンボジア産の米で焼酎を製造し、またサトウキビでラム酒の製造をして(株)今治デパートの四村ショッパーズで販売している。更には、フランスのリオンで開催される展示会に出展を予定している。また、村民の畑で栽培されているレモングラスを蒸留して精油を採取したところ、品質の良いレモングラスオイルの製品化に成功した。今後、日本などにも輸出する予定。これらの活動は、現地法人KHMER JYORYU Co., LTD. (クマエ蒸留株式会社 社長Mr.ソックミエン) によって地場産業の発展を促進している。そのための活動投資として、上級国会議員であるプラチャン閣下、バタンバン州のラタナ州知事、前バタンバン州副知事のソッコン氏、実業家のポッポイ氏に援助して頂いている。日本の皆さんにも技術協力などご支援を頂いている。

(5) 日系企業の誘致を支援する事業

2008年に1社(JPC)、2011年に2社(スギウラ、やまと印刷) 2014年に1社(キンセイ)、計4社四国中央市の紙加工会社を活動地の村に誘致した。更にカンボジアで活動している松山市、伊予市、今治市の会社の支援を行っている。愛媛県とバタンバン州の友好交流、協力活動の調印に伴い、技術協力や企業活動が活発になるように模索しながら実施していくことになる。

(6) 教育環境の発展を支援する事業

学校建設は、2校。No. 15 広島ของบริษัท4社のご協力でサンパウルーン郡の村に小学校を、No. 16 愛媛の会社からサンパウルーン郡の村に小学校をご寄贈頂いた。

(7) 人材の育成を支援する事業

ア 留学生・技能実習生の支援

2013年11月タサエン出身のスロ・リスラエンを松山に招致し、2014年4月から松山の聖カタリナ女子高等学校に留学させ、2017年3月無事卒業した。2017年4月から松山東雲女子大学に進学し現在3年生として就学している。

2017年11月からIMCCD日本語学校の生徒4名を今治市内のスーパーマール

ットで技能実習生として実習させた。現在は、内子町の㈱キドフーズで3名が技能実習中である。更に、宇和島市吉田町の会社に技能実習生として来ているカンボジア人女性18名について、会社と連携しながら服務指導などアドバイスを実施している。

イ IMCCD日本語学校

村の子供たちに日本語とパソコンを教え、将来、日本企業への就職や、技能実習生として日本で実習しながら自立発展する機会を提供している。また通訳など日本語能力を生かした職業に就けるように支援している。生徒のうちこれまでに、日本への留学2名、プノンペン大学の日本語学科へ7名、プノンペンの日本語学校へ7名が進学している。更に八戸市の高校に短期留学生としてこれまで4名を受け入れていただいた。

日本語学校の現在の生徒数は、日本語教室が約40名、パソコン教室が約10名である。2014年5月には、カンボジア政府から「日本語学校」として認定された。先生はIMCCD日本語学校の卒業生で社会人になっている女性、及びIMCCD日本語学校出身の高校生2名、パソコン教室は男性1名で運営している。

(8) 講演、写真パネル展などを通じ平和構築を啓発する事業

ア 日本での講演活動

小学校、中学校、大学、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストなどでの講演を16回、少人数での交流会を8回、計24回実施した。(累計415回)

最近では、テレビ、新聞などの報道が全国的になり、講演なども全国的な活動になってきている。2019年6月13日フジテレビから全国放送された「奇跡体験アンビリバーボー」への出演の反響が顕著であった。

イ 写真パネル展示

IMCCD東京支部主催のグローバルフェスティバル、愛知支部主催の静岡、名古屋でのイベント、兵庫支部が実施したカンボジアフェスティバルなどでブースを開設して写真パネルを展示した。

ウ 日本人のタサエン地区など訪問見学

176名(累計1028名)の邦人が活動地タサエン地区を訪問し、地雷処理活動や村の様子、日本語学校などを見学し、また宿舎での生活体験をした。特に大学生のスタディーツアーが60%を占め、地雷処理という戦後処理を行いながら平和を回復した村人との触れ合いの中から「心の豊かさとは」、「人の幸せとは」「日本での当たり前の生活とのギャップ」など多くの気づきを得たようだ。殆どの訪問者は、高山がタサエンにいる時期に集中し、2月、7月、8月が最も多い時期になる。

(9) 広報に関する事業

ア リーフレットを逐次に活用するとともに、機関紙「カンボジア便り」を11月と5月に作成、配布し広く支援者などに活動を広報している。

更に、一時帰国の約1ヵ月間を活用し、テレビ、ラジオ、新聞などマスメディアを利用した広報活動の他、講演会、交流会などを実施した。

講演会や交流会では、白潟禎(てい)理事写真提供、橋本順子監事により作成された、動画「平和の種になりたい」を放映し、活動を音楽と映像でも広報している。

2月1日から勤務している中矢 匡（ただし）事務局長も、事務局での業務の傍ら、高山理事長や正 金郎副理事長と共に企業、支援者への挨拶や広報活動に力を入れている。また、愛媛県内には八幡浜分会、新居浜分会、今治分会、四国中央分会、愛媛県以外では群馬支部、広島支部、東京支部、兵庫支部、愛知支部が設置されているが、新たに宮崎支部、山口支部が設置された。海外では、カンボジアのバタンバン支部、シエムリアップ支部、タイにバンコク支部を設置している。

イ 表彰等

『志大賞』 2019年9月15日 【一般社団法人 志教育プロジェクト】

『愛媛新聞賞』 2020年1月8日 【第68回愛媛新聞賞 社会部門】

著書 『地雷処理という仕事』—筑摩書房— 初版8000部 重版800部

『平和の種になりたい』—IMCCD—

動画 『平和の種になりたい』—IMCCD—

以上